

Topic 1

◇文理選択のポイント これだけは外せない！

文系の学部に進むのか、理系を目指すのか、高1・高2のときに「文理選択」をします。すでに学校から進路志望調査があった人もいるでしょう。11月に文理選択の確定を求められている人もいます。

※学校によって文理によるコース分け・クラス分けがない場合でも、「文理選択」の結果によって、次年度の履修科目が絞られることになります。

オープンキャンパスなどを通じてすでに志望大学が明確な人や、受験科目が決定している人はすんなり「文理選択」ができると思いますが、将来の目標がはっきりしない、得意科目・不得意科目からは自分が文系（英語・国語・社会が主要な受験科目）に向いているのか、理系（英語・数学・理科が主要な受験科目）に向いているのかがはっきりしない人は悩むと思います。

そこで、先輩の成功例や失敗談を参考に、これだけは外せないポイントを抑えましょう。

◇将来の目標から考える

文系だと有利な職業例

- 公認会計士…経済全般の専門的な知識が必要。最難関の国家試験に合格するため、経済学部・商学部などの文系学部出身者が多い。
- 弁護士・裁判官・検事…司法試験に合格することが必要。法学部を卒業後、法科大学院へ進学するのが近道。司法試験合格率は法科大学院ごとに大きく異なるので、それも大学選びの参考にする。
- 図書館司書…文学部・教育学部が司書課程を設けている。その単位を取れば資格がとれるが、実際の就職は狭き門。
- ※この他、公務員試験においては、法学部卒業であれば免除される試験科目があるなど有利に働くことがあります。

理系でなければ就けない職業例

- 医師・獣医師…医学部・獣医学部を卒業し、国家試験に合格することが必要。
- 薬剤師…薬学部を卒業し、薬剤師国家試験に合格することが必要。
薬学部には、薬剤師になるための課程（6年制）と、卒業後に就職（または大学院に進学）する課程（4年制）があるので注意。

理系だと有利な職業例

- 建築士…2級建築士資格をとる必要があるが、専門的な知識が求められるため、建築学科を卒業した人が多い。

◇大学で学ぶ学問（大学で必要となる知識）から考える

上記のように、明らかに文系・理系で有利不利が明らかな職業もありますが、文系・理系が職業と直結しない場合も多々あります。

【例】栄養学部や看護学部には、現代文、生物、英語で受験ができる大学があります。

しかし、将来必要となる知識（大学で学ぶ知識）を受験科目としておくと、あとあと有利に働きます。苦手科目だから受験科目から外すという安易な選択は避けたほうがよいでしょう（むしろ、将来必要だから苦手を克服するという気持ちを持ちましょう）。

下記にあげる受験科目と学部系統を確認してください。

・大学で英・国・地歴公民の知識が必要

文学部 社会学部 外国語学部 法学部 国際関係学部 経済学部 経営学部 商学部

※経済学部 経営学部 商学部 は統計学を学ぶので、数学的知識が求められる。

・大学で数学・理科の知識が必要

理学部 工学部 農学部 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 獣医学部 水産学部

・大学で文系・理系にかたよらない知識が必要

総合科学部 生活科学部 芸術学部 教育学部（専攻科目による）

◇先輩の成功例・失敗談

①慶応義塾大学合格 K先輩



「指定校推薦狙いだったので、文系の経済学部・商学部志望でしたが、数学に力を入れました。得意科目だったため、高3でも文系クラスの数学演習をとり、通知表で好成績をとって評定平均を上げるのに役立ちました。」

★推薦合格を狙い、得意科目を履修して評定平均を上げる戦略が成功した例です。

②東北大学合格 N先輩



「私は国公立大学を第一志望としていたので、国立文系コースを選択しました。センターで必要な化学の授業を高3でも取ったため、古文演習を取ることができなかったのですが、塾のWEB授業を意識的に多く受講して対策をしました。」

★センターだけで受験が必要な科目でも、高3のときに自学するのは避けたほうがよいと思います。

③青山学院大学合格 H先輩



「僕の高校は文系でも数学・理科を高3で取らなければなりませんでした。一般受験を決めていたので、定期テスト勉強で負担の少ない生物と数I・A演習を取りました。授業中は正直なところ真面目に受けていたとはいえませんが、定期テスト期間は先生が「でる」といった問題だけ解けるようにしました。」

★学校の履修の組み合わせ上、受験に必要な教科を高3でとらなければならないことが公立高校ではあります。H先輩の例は、そのような場合の賢い選択と言えます。

④明治薬科大学合格 A先輩



「私は初め理学部を志望していました。そのため受験に必要な数Ⅲを高3で取りましたが、途中で志望を薬学部に変更してから、薬学部は数I・A・Ⅱ・Bだけで受験できることを知りました。定期テストで赤点をとらないように必死に勉強しなければなりませんでした。」

★数Ⅲは理系の人のみがかかる難解な科目です。受験で必要がない人が勉強することの負担は相当なものですから、そうならないように注意しましょう。

⑤女子栄養大学合格 M先輩



「私は管理栄養士の資格がとれる大学を選んで受験しました。ただ行きたい大学の受験科目がばらばらで、数I・Aを必要とするところや、代わりに現代文で受験できるところなどがあり、選択に悩みました。高3では現代文演習の授業がなかったため、塾でWEB授業をとり、学校の授業で数I・Aを選択しました。現代文の成績が伸びたので最終的には現代文で受験しましたが、もっと早く決められていれば、無駄がなかったと思いました。」

★志望校の受験科目にばらつきがあると勉強に無駄が生じます。第一志望だけに必要な科目なら力も入りますが、第二志望以下の大学にだけ必要な科目ならば選択を避けたほうが賢明です。

5人の先輩に共通して言えることは、「受験校・受験科目を早めに決定した」ことです。やむを得ず必要のない科目をとる場合も、効率を考えて「最小限の労力で乗り切る」ことを考えましょう。どうしても文系・理系がはっきりしない人は、受験で数Ⅲが必要かどうかだけ確認して、必要なければ「国公立文系」、必要ならば「国公立理系」を選んでおくと大きな間違いはないです。



1 「新課程」の2015(H27)年度 センター試験時間割

大学入試センターは6月初めに『27年度 センター試験実施要項』を公表した。さらに、7月上旬には、おもな変更点を改めて発表した。注目されていた「理科①」（理科・基礎）は2科目受験が必須で、2科目合わせて60分間での解答となる。

●2015(H27)年度 センター試験「出題教科・科目」と「時間割」●

試験日	出題教科・科目		試験時間
第1日 (1/17) ・ (土)	地理歴史 公民	「世界史A」「世界史B」「日本史A」 「日本史B」「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」「倫理, 政治・経済」	2科目受験 9:30~11:40 1科目受験 10:40~11:40
		国語	「国語」 13:00~14:20
	外国語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」	【筆記】 15:10~16:30 【リスニング】「英語」のみ 17:10~18:10
第2日 (1/18) ・ (日)	理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30~10:30
	数学①	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」	11:20~12:20
	数学②	「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」	13:40~14:40
	理科②	「物理」「化学」「生物」「地学」	2科目受験 15:30~17:40 1科目受験 16:40~17:40

2 大学入試改革 「達成度テスト」早ければ2021(H33)年度入試から

政府の教育再生実行会議は昨年10月、現行のセンター試験に代わる新たな共通テストとして「達成度テスト」の導入を提言した。達成度テストは、年1回のセンター試験と異なり、複数回受けられるのが特徴。1点刻みを改め、段階別で評価する。同会議は、2次試験でも海外留学などの経験や高校での課外活動など、人物本位の評価を重視するよう求めた。早ければ、2021(H33)年度入試から年2回実施するとの素案を示した。現在の小6生からが対象となる。改革の背景にあるのは現行制度の限界である。決まった答えのない課題に取り組むグローバル人材を育成できていないという問題意識である。

3 私立大のキャンパス移転 「都心回帰」

私立大学において、ここ数年でキャンパスを一部またはすべてを都市部に移転する動きが顕著である。狙いは生徒獲得の効果である。都心キャンパスを再開発して、手狭感を高層ビル化するなどして解決を図っている。過去3年間の首都圏主要大学のキャンパス移転をまとめると、

- ・専修(法) 生田→神田 ・帝京(薬) 相模湖→板橋 ・東京電機(未来科・工) 神田→千住
- ・青山学院(文系学部) 相模原→渋谷 ・明治(国際日本) 和泉→中野
- ・東京理科(理・工) 神楽坂→葛飾, (基礎工) 野田→葛飾
- ・実践女子(全学部) 日野→渋谷 ・大妻女子(家政・文) 狭山台→千代田
- ・拓殖(商・政経) 八王子→文京

◇ 大学入試を基礎から知る

第5回 <AO入試の仕組みは？>

“意欲や適性を評価するのがAO入試”

面接や論文審査などを繰り返し行い、大学が求める人物像と合っているか、じっくりと時間をかけて受験生の目標意識や適性を評価する、長期間型の入試である。そのため、大半の大学は、「アドミッション・ポリシー」という形でどんな人物を求めているかを示している。「その大学で学びたい」という意欲を強くアピールすることが合格のカギとなる。

“学力を合否基準に含める動きが定着”

もともと、AO入試は学力評価に偏らない人物評価入試として導入された。しかし、入学者の基礎学力への懸念から、近年、学力試験やセンター試験を課す、資格・検定試験の成績を利用する、評定平均の基準を設定するといった形で学力を把握する傾向が強まっている。

“国公立大学のAO入試”

出願9～10月、合格発表11～12月上旬が標準的な入試日程である。選考方法は1次が書類審査、2次が面接・小論文といった方式が一般的である。その他、セミナーやスクーリングなどに出席してレポートを提出させるといったものもある。また、基礎学力を把握するために、センター試験を課す大学も増えており、その場合は合格発表が2月半ばとなる。

“私立大学のAO入試”

私立大学のAO入試は、一般的には9月以降に本格化し、推薦入学の始まる11月初旬までに結果が判明するという日程になっている。選抜方法はバラエティーに富んでいて、大学によりかなり違いがある。多くの大学で行われているのが「対話重視型」のAO入試である。エントリー後、事前面談、予備面談など複数回の面談を重ね、合格内定を得ることができる。学力よりも、大学・学部への適性や学ぶ意欲がより重視される選考である。一方、難関大学では、国公立大学と同様、1次が調査書・志望理由書などの書類審査、2次が小論文・面接というパターンが一般的で、加えてセミナーやスクーリングの実施、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを組み合わせ、時間をかけた選抜方法を採用している。

●AO入試出願から合格までの流れ●

